

月曜日

19

### きょうのみことば

使徒 14:19~28

ところが、アンテオケと  
 イコニオムからユダヤ人  
 たちが来て、群集を抱き  
 込み、パウロを右打にし、  
 死んだものと思って、  
 町の外に引きずり出した。  
 しかし、弟子たちが  
 パウロを取り囲んで  
 いると、彼は立ち  
 上がって町に入って  
 行った。その翌日、彼は  
 パルナバとともに  
 デルベに向かった。  
 (19 20)

## 神様の愛をわかちあおう！

エミがある日、机のひきだしを見たら、ふうせんがいっぱい入  
 っていました。パパがプレゼントで、こっそりと入れてくれた  
 のです。エミは、たくさんの方せんをどうしようかと、なや  
 みました。

「そうだ。おともだちに分けてあげればいい！」  
 エイは、カバンいっぱいふうせんを入れて、ともだちに分けて  
 あげました。

「ありがとう。エミ！」  
 ともだちのことに、エミは雲の上をふわふわ浮いている気が  
 しました。

レムナントのみなさん、エミのようにたくさん持っていれば、  
 分けてあげることができます。なにを分けてあげられるのでし  
 ょう。神様の愛です。どのように分けてあげられるのでしょうか。  
 かんたんです。「草は枯れ、花はしぼむ。だが、私たちの神の  
 ことばは永遠に立つ。」というイザヤ 40 章 8 節のみことばのよう  
 に、永遠な神様の愛を伝えればよいのです。

「ともだちは、聞かないです。ある子は私を追い出すことさえ  
 しました。神様の愛を伝えたくありません」

福音を伝えてみると、そのようなむずかしい目には当然、あ  
 うようになります。しかし、おそれないでください。神様がロ  
 ーマ 8 章 39 節に、たしかにこのようにおっしゃいました。

「高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キ  
 リスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはで  
 きません」

この信仰を持って、今日一日、神様の愛をわかちあうレムナ  
 ントになってください。

神様の愛を伝えられるように私を先に選んでくださってありがとうございます。神様の  
 愛が必要ともだちのために、私が神様の愛を先に味わう者になるように聖霊で満たしてく  
 ださい。私と私のおともだちを愛しておられるイエス様のお名前でお祈りします。アーメン  
 ＊ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

## 詩篇 119 篇 9 ~ 16 節

どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。  
 あなたのことに従ってそれを守ります。  
 私は心を尽くしてあなたを求め求めています。  
 どうかが、あなたの御せから迷い出ないようにしてください。  
 あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことを心にたくわえました。  
 主よ。あなたは、ほむべき方。あなたのおきてを私に教えてください。  
 私は、このくちびるで、あなたの御口の決めたことをことごとく語り告げます。  
 私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでみます。  
 私は、あなたの戒めに思いを潜め、あなたの道に私の目を留めます。  
 私は、あなたのおきてを喜びとし、あなたのことを忘れません。

\* 詩篇 119 篇を一週間ずっと黙想してみてください。神様の  
 みことばが あたたく心に入るようになります。  
 私がどれほどたいせつな 神様の子供であるのかが  
 わかるようになります。



火曜日

20

### きょうのみことば

出 27:20-21

あなたはイスラエル人に  
命じて、燈火用上質の  
純粋なオリーブ油を持って  
来させ、ともしびを絶えず  
ともしておかなければ  
ならない。アロンと  
その子らは、あかしの  
箱の前の垂れ幕の外側に  
ある会見の天幕で夕方から  
朝まで、主の前にその  
ともしびを整えなければ  
ならない。これは  
イスラエル人が代々  
守るべき永遠のおきて  
である。

## ひる たいよう 昼には太陽のように、 よる 月 夜には月のように

マコトの誕生日にあわせて、家族だけで誕生日パーティをしました。家族は誕生日の歌を歌ってケーキのろうそくの火を消しました。ところで、ケーキを切る瞬間、急に家のすべてのあかりが消えました。最初はまっくらで、なにも見えませんでした。しかし、少しずつ暗やみに目がなれてきたら月がマコトの家を明るくてらしていました。

急にあかりが消えるように、レムナントのみなさんにも、霊的な停電になることがあります。それで、おそれてガチガチにかたまって、なにもできなくなります。このような時は、どうすればよいのでしょうか。

祈りのスイッチを上げればよいのです。停電になれば、電気のスイッチをいれてもあかりはつきませんが、祈りのスイッチはキリストの契約をにぎって祈るだけで、いつでもあかり(光)が入ってきます。

あかりが目に見えないのでしょうか。霊的だから、もっとそうです。私たちがいっしょに祈りのスイッチをいれて、霊的なあかりを体験してみましょう。

私を救ってくださったイエス・キリストに感謝する祈りのスイッチをカチャ!

私たちの家族とともだちを攻撃する暗やみの勢力を、イエス・キリストの名前で縛る祈りのスイッチをカチャ!

全世界をつかんでいる暗やみの文化が崩れて、RUTC がたてられるように祈りのスイッチをカチャ!

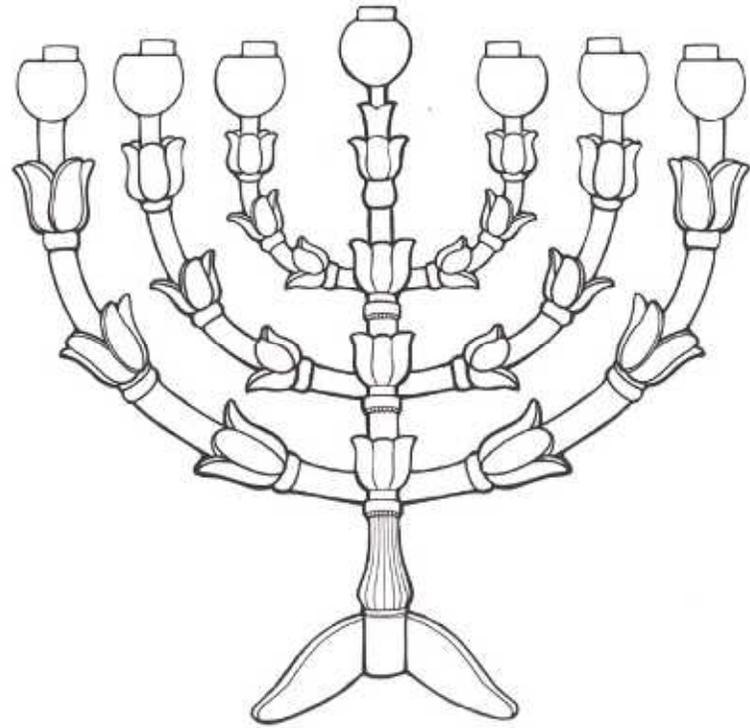
とてもやさしいでしょう。今日から毎日、毎日、定刻で、常時で祈りのスイッチをカチャ、カチャ、入れましょう。

私を光の子どもとして立ててくださった神様に感謝します。祈りのスイッチを毎日入れることができるように、聖霊に満たされる新しい力をあたえてください。また、地域と民族と全世界のための RUTC が立てられるように働いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

レムナントのみなさん、祈りのともしび、福音のともしび、伝道のともしびがたえないように、金の燭台に火をあかるく輝くように炎をかいてください

ともしびを  
たえず  
ともしておかなければ  
ならない



水曜日

21

### きょうのみことば

ローマ 16:1~2

ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげてください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。

## でんどうしゃ 伝道者を助ける人

ユウカの両親は、月曜日から土曜日まで夜に屋上で仕事をしています。それで、ヨリトは両親のためにいやいやながらも、家事を助けて、弟のヨリトのめんどうをみます。ユウカは、両親がおそくまでがんばって仕事をする理由が、自分と弟のためだという事実をよく知っていたので、両親のかわりをして、家事もして、弟のせわもしていたのです。

ところで、聖書にもそのような人物がいました。コリントの近くの都市の人ケンクレヤの女の執事であり、パウロの2次と3次伝道旅行でとても助けてくれたフィベという人です。

フィベは、伝道をよく理解していました。それで、彼女は物やお金で使徒たちの働きを全面的に支援して、愛と労苦をおしりませんでした。パウロは、彼女にたいして伝道者を「助ける人」としてローマ16章1~2節に明らかにしました。

レムナントのみなさん、フィベのように伝道者を助ける祝福をいっしょに受けてみませんか。

まず、私自身がどれだけ伝道をよく理解しているのか、受け入れのためのメッセージを一度してみてください。それから、私たちのまわりの伝道者の名前を書いておいて、祈りながら、実際にどんな部分を助けてあげるべきか、具体的に考えながら祈ってみましょう。

神様、私に伝道者を助けることができる身分と権威をくださって感謝します。事実的で、具体的に、伝道者を助ける霊力と知力と体力と経済力と人材をください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼12時 教会のために祈りましょう。夜9時 RUTCのために祈りましょう

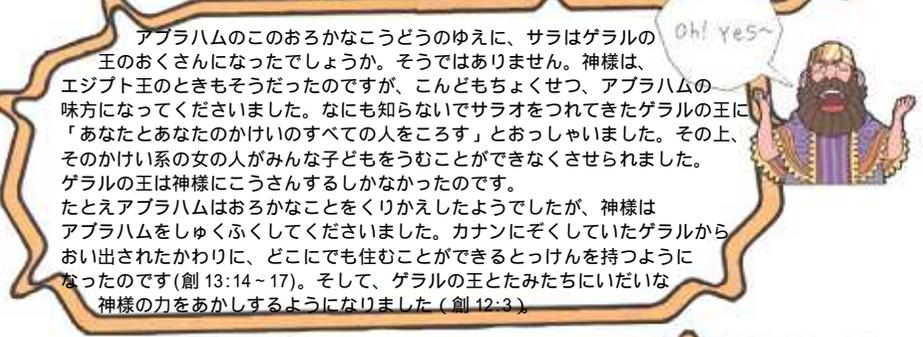
## おろかなアブラハムと

### 契約の成就

福音の目で見たマンガ聖書解説



アブラハムのおくさんのサラは、うつくしい人でした。それで、アブラハムはいつもしんばいしていました。ほかの人がサラをその人のものにするために、アブラハムをころすのではないかと思ったのです。アブラハムのしんばいどおり、エジプトの王はサラをおくさんにしようとしてました。ゲラルの王もまたサラをおくさんにしたりしました。ところでアブラハムはゆうきを出して「この女はわたしのおくさんです！」と言えませんでした。ただゲラル王のおしるにつれて行かれるおくさんのうしろすがたを見つめているだけでした。



なぜ、神様はいつもアブラハムの味方なんだ？

さいしょのりゆうは、神様がかれをメシヤのせんぞとすることにきめられたからです。2ばんめは、神様がかれにくださったやくそくゆえです(創12:1~3)。神様はごじぶんのみことばを、かならずなしとげられる方です(エレミヤ33:2、ヨブ23:14)アブラハムがどんなにおろかなこうどうをしても、ふつうであるどころか、むしろおろかなこうどうをくりかえしても、神様にはもんだいになりませんでした。神様のやくそくだけしっかりとにぎったら、神様はそのやくそくをかならずじゅしていただきます。おろかで、よわかったのですが、神様にもちいられた人をさらに知りたいなら、しとパウロのこくはくもよんでみてください。では、らいげつにまたね。(コリント12:9~10)



木曜日  
22

### きょうのみことば

コロサイ 2:2-3

それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解をもって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになるためです。このキリストのうちに知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

## 3つの運動器具で 力をつけよう！

からだに骨がないなら、どうなるでしょう。からだはゼリーのようになぐにやぐにやで、骨がないから腕や足も洗濯のロープにかかった洗濯のように、だらりとするのではないのでしょうか。私たちのからだにあるすべてのものがみな重要ですが、中心になる骨がないならば、本当に生活するのがむずかしいでしょう。

からだには重心をとってくれる骨が必要なように、福音の中にも重要な中心がなければなりません。

まさに「今日の伝道」「今日のみことば」「今日の祈り」この三つが先に中心にならなければなりません。そして、この中で「私の人生」「私のタラント」「私の経済」が出てきてこそ、力を持つようになります。この力がまさに初代教会の信徒が持った隠れた力です。

福音の中で力を大きくすれば、いのちを生かせます。それだけではなく、世の中の文化も福音にかえることができます。

レムナントのみなさん、今日から霊的な運動をすぐにはじめてみませんか。

「今日の福音(伝道)」ランニングマシンを走って、「今日のみことば」アレイを持って、「今日の祈り」自転車に乗って、霊的な力を大きくしてみましょう。私たちが「この三つは、いったいなんだろう」と神様の前で質問するだけでも、神様はかならず答えてくださいます。

霊的兵士として、神様の力を味わうようにさせてくださる神様に感謝します。今日の福音(伝道)、今日のみことば、今日の祈りを先に考えてから一日をはじめられるように聖霊に満たしてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼 12時 教会のために祈りましょう。夜 9時 RUTCのために祈りましょう

本の中の本 ヨハネの福音書第2章のおはなし

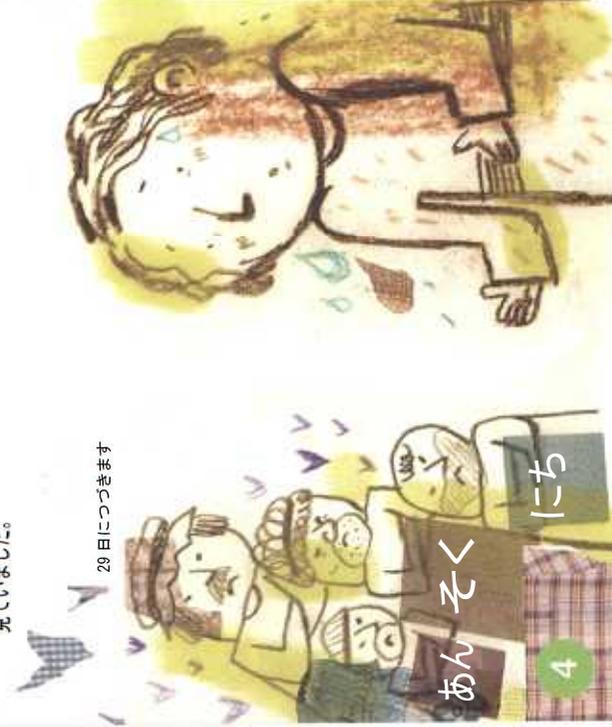
## 目の見えない人

「イエス様、あの人をちよっと見て下さい。生まれつき目が見えないのでです。この人がこのように生まれたのはだれの罪のせいですか、あの人の罪でしょうか、親の罪でしょうか」  
イエス様といっしょに道を行く弟子たちが生まれつき目が見えない男をさしながらずねました。すると、イエス様がおっしゃいました。

「この人の罪でも、彼の親の罪でもありません。この人が生まれつき目が見えないのは、神様が神様の働きをその人を道して現わされるためです。わたしたちは昼が長く、わたしたしを送られた方の働きを編けしてしなければならぬ。だれも働くことができない彼が来るからです。わたしは世にいるあいだ、わたしは世の光です」

「なぜ、こんなことをするのですか？私が見えるようになったのがなにかいけなかったのか、私をバプタイ人のところにひっぱって来たのですか」  
目が見えるようになった男はバプタイながら話しました。  
「あなたが目が見えるようになった今日が何の日かわからないということですが！今日は安息日です！」  
目が見えるようになった男はびくびくして、声がするほうを見ました。  
バプタイたちが目をこわいように見つめて、男をにらみつけて見えました。

29日につづきます



あんそく  
にち

# ひとりの人！ひとつのチーム！

金曜日

23

## きょうのみことば

使徒 18：1-4

ここで、アクラというポイント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウドが、すべてのユダヤ人をローマから遠くさせるように命令したため、近ごろイタリアから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き自分も同業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は大工作りであった。(2-3)

---



---



---



---

福音をもった一人をだいせつに思ってください。神様が、私がいまず福音を味わえるように、聖霊で満たしてください。私を証人としてくださって、ともに伝道運動をするチームができる働きを見るようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

✪ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

イエスはどのように言われたあと、地面にツバをはいて、それでどろにされました。そして、そのどろを、目の見えない人の目に塗ってくださいました。

「さあ、今、シロアムの池に行つて洗いなさい」  
イエスがおっしゃいました。生まれつき目の見えない男は、手さぐりでシロアムの池に出て行きました。手に水をくんで、そうと目を洗いました。  
「あつ！ こんなことが！」

目が見えなかった男は、目をしてとびあがりました。あかるい世の中が目の前に見えたためです。

「まあ、あの人、あの前で、ものごいをしていた目が見え

なかつた人じゃないの？」

「そうですね。目が見えるようになったようだし」

「なんのはなし！ その人じゃないよ、ただにている人だよ」  
人々がやがや言いながら集まってきました。

「私は、ものごいをしていて、その人です。生まれつき目が見えなかったその人です」

目が見えるようになった男は大きい声で話しました。  
「いや、どのように目が見えるようになったのですか？」

「イエスという方がどろを作つて、私の目にくっつけてください、シロアムの池に行つて洗いなさいとおっしゃったのです。私はそのみことばどおりに洗いました。するとこのように目が見えるようになりました」

「その人は今、どこにいるのですか？」

「わかりません」

ところが、とつぜん、人々が彼の両手をつかんで、パリサイ人のところにひっぱつて行きました。



一つのこと<sup>ぼつとう</sup>に没頭<sup>ぼつとう</sup>できる人だけが  
この世<sup>か</sup>を変えることができるのです

- 平凡<sup>へいぼん</sup>な天才<sup>てんさい</sup>パーバラ・マクリントックのお話

おさないとき、いつも「勉強<sup>べんきょう</sup>ができない子」、「頭<sup>かみ</sup>が悪い子」ということを聞いていた人が中学校、高校に上がりながら、いろいろな面<sup>めん</sup>で、才能<sup>さいのう</sup>が現<sup>あらわ</sup>れてくる場合<sup>ばあい</sup>があります。

子どものときは、興味<sup>きょうみ</sup>を感じなかつたのですが、大きくなりながら勉強<sup>べんきょう</sup>に興味<sup>きょうみ</sup>を持って没頭<sup>ぼつとう</sup>することで、まわりの人がびっくりするほど大きな発見<sup>はっけん</sup>をするようになるのです。

今日は、そのように一つのこと<sup>きょうみ</sup>に興味<sup>ぼつとう</sup>を持って没頭<sup>ぼつとう</sup>するとき、どれくらい大きい人生<sup>じんせい</sup>の変化<sup>へんか</sup>がおきるかということについてお話をしましょう。前に話したように、小さいときはだれよりもふらふらして、平凡<sup>へいぼん</sup>な子どもだったのですが、成長<sup>せいちょう</sup>して「集中<sup>しゅんしゆ</sup>する力<sup>りき</sup>」を持って大きな成功<sup>せいこう</sup>をした人がいます。それが、女性<sup>じよせい</sup>で単独<sup>たんどく</sup>では最初<sup>さいしゆ</sup>にノーベル賞<sup>しやう</sup>を受賞<sup>じゆじやう</sup>した科学者<sup>かがくしや</sup>パーバラ・マクリントックです。

一つの分野<sup>ぶんや</sup>に深く没頭<sup>ぼつとう</sup>して、やめずにそれについて研究<sup>けんきゆう</sup>する道<sup>みち</sup>は、本当に大変<sup>たいへん</sup>な道<sup>みち</sup>です。しかし、パーバラは自分自身<sup>じぶんじしん</sup>で目標<sup>もくひやう</sup>を設定<sup>せってい</sup>して、それにだけ没頭<sup>ぼつとう</sup>しはじめたのでした。大人<sup>だいじん</sup>になる前は、ただ平凡<sup>へいぼん</sup>な女の子<sup>おんなこ</sup>だったのかもしれませんが、ある瞬間<sup>しゆんかん</sup>、心<sup>こころ</sup>にかたく決めたのでした。

「私はこれから、私自身<sup>わたしじしん</sup>がした約束<sup>やくそく</sup>を絶対<sup>ぜったい</sup>に破<sup>やぶ</sup>らない。私はできるという信仰<sup>しんこう</sup>を持って終わりまで挑戦<sup>ちやうせん</sup>する。たとえ、その道<sup>みち</sup>が大変<sup>たいへん</sup>で、孤独<sup>こどく</sup>だとしても、私は絶対<sup>ぜったい</sup>にふりかえることなく、その道<sup>みち</sup>を行く。集中<sup>しゅんしゆ</sup>することができる人だけが成功<sup>せいこう</sup>することができるから!」

そのように決断<sup>けつだん</sup>したパーバラは、そのときから、いっしょうけんめいに勉強<sup>べんきょう</sup>をしはじめました。

いろいろな実験<sup>じっけん</sup>もしてみたのですが、自分<sup>じぶん</sup>にはひとり研究<sup>けんきゆう</sup>することを、いちばん合<sup>あ</sup>っているとさとして、

◆ 定刻<sup>ていこく</sup>祈り<sup>いのり</sup>の点検<sup>てんけん</sup>：

昼 12 時

教会<sup>かいぎ</sup>のために祈<sup>いのり</sup>りましょう。

夜 9 時

RUTC のために祈<sup>いのり</sup>りましょう

ただひとつの道<sup>みち</sup>だけをいっしょうけんめいに歩きはじめました。その結果<sup>けっか</sup>、彼女<sup>かのじよ</sup>は 1927 年 25 歳<sup>さい</sup>という若い年<sup>はかせ</sup>で博士<sup>がくい</sup>の学位<sup>がくい</sup>を受けました。

このごろは、そんなことはないのですが、そのときは女の人が大学<sup>だんじよ</sup>に行<sup>い</sup>って社会生活<sup>しゃかいせいかつ</sup>をするということは本当<sup>ほんとう</sup>にむずかしいことでした。男女差別<sup>だんじよさべつ</sup>も本当に

激<sup>げき</sup>しかったのです。パーバラはいっしょうけんめいに勉強<sup>べんきょう</sup>をしたのですが、いつも生活<sup>せいかつ</sup>の心配<sup>しんぱい</sup>をしなければなりませんでした。

男女差別<sup>だんじよさべつ</sup>のために、ひどい精神<sup>せいしん</sup>的な苦勞<sup>くろう</sup>をしたりもしました。

しかし、「どうもろこし」の中にいのちの秘密<sup>ひみつ</sup>を発見<sup>はっけん</sup>

しなければならないという目標<sup>もくひやう</sup>をおいて、それに向<sup>むか</sup>って挑戦<sup>ちやうせん</sup>しつづけました。

一つの井戸<sup>いど</sup>を掘<sup>ほ</sup>る人は、ついには井戸<sup>いど</sup>を手<sup>て</sup>に入<sup>い</sup>れると言われるでしょう。また、どんなことでもいいかげんにする人は、どんな成果<sup>せいこ</sup>も得<sup>え</sup>ることはできないと

言<sup>い</sup>われています。目標<sup>もくひやう</sup>を定<sup>さ</sup>めたとすれば、

それに向<sup>むか</sup>って最後までして見るべきです。

パーバラは、結局<sup>けっきよく</sup>、ゆれることなく集中<sup>しゅんしゆ</sup>したすえに、世界<sup>せかい</sup>で最も有名<sup>もつとゆうめい</sup>で尊敬<sup>そんけい</sup>される科学者<sup>かがくしや</sup>になりました。

みなさんには、今<sup>いま</sup>、どんな目標<sup>もくひやう</sup>がありますか。目標<sup>もくひやう</sup>がないならば、今<sup>いま</sup>、一度<sup>いちど</sup>、目標<sup>もくひやう</sup>をたててください。

「私がとてもよくできること、とてもしてみたいことはなかな」そして、その目標<sup>もくひやう</sup>を決<sup>け</sup>めたら、いっしょうけんめいに没頭<sup>ぼつとう</sup>して集中<sup>しゅんしゆ</sup>してみてください。そうすれば、ついには、その目標<sup>もくひやう</sup>を達成<sup>たっせい</sup>してしまいますから。みなさんがいつも考<sup>かん</sup>えて、関<sup>かん</sup>心<sup>しん</sup>を持って没頭<sup>ぼつとう</sup>すれば、その目標<sup>もくひやう</sup>もある日<sup>ひ</sup>、みなさんのものになっているのです。

文\_チョン・ヘンミ 作家 イエウォン教会

